

きんもくせい

病院だより

vol.104

令和4年
1月号



新年のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から当院の運営に対し多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。



世界で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されてから2年が経ち、未だ収束の兆しが見えない中、新しい年を迎えました。昨年は、緊急事態宣言下の中で初の無観客でオリンピックとパラリンピックが開催されました。大会期間中には第5波が日本を直撃し、中東遠地域もその渦の中に巻き込まれ、当院でもこれまでにないほど医療がひっ迫し、危機的な状況に陥りました。医療のひっ迫を緩和するために、中東遠5病院が新型コロナ宿泊療養施設を院外病棟のような形で運用したり、自宅療養者には当院から電話で健康観察を行うなど、中東遠地域の全ての医療機関が一丸となってコロナに立ち向かいました。第1波から第5波まで断ることなく、静岡県全域の感染者にも入院対応してきました。また、昨年10月には、より強固な医療連携を図るべく、中東遠5病院の病院長と関係市町の首長が集まり、「医療連携及び協力に関する協定」を取り交わしました。今後も地域医療を支えるという使命感を持ち、職員が一丸となって全力を尽くしてまいります。

新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させました。私たちは治療をすることはできても病気を予防することはできません。あなたの命、あなたの大切な人の命を守るためにも引き続きの感染対策にご協力をお願いします。明けない夜はありません。いつか訪れるいつもどりの日常を皆で迎えましょう。

この新しい年が皆さまにとって良き年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

企業長・院長 宮地 正彦



シリーズ がんと闘う 住みなれたこの場所で 患者さまが“ラク”に治療できるように

外来がん治療認定薬剤師 あつみ ひとし 渥美 仁 × がん化学療法看護認定看護師 おかだ 岡田 みどり

抗がん剤治療というとどんなイメージを持ちますか？つらい治療のイメージがありませんか？髪が抜け、吐き気を催す…。映画やテレビでもそのようなシーンをよく目にしますね。しかし、近年では副作用を予防する薬も多く開発されています。シリーズ“がんと闘う 住みなれたこの場所で”第6弾では、がん治療の一つ、薬物療法について、外来がん治療認定薬剤師の渥美薬剤師とがん化学療法看護認定看護師の岡田看護師に話を聞きました。目指す先は患者さまが“ラク”に治療できるように。

薬物療法とは？

がんの薬物療法は、がん細胞をやっつけたり、がん細胞が細胞分裂をして増えていかないようにすることを目的としています。薬物療法は近年、急速な進歩を遂げており、使われる薬剤は、抗がん剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬といった薬剤があります。薬剤は点滴をするものだったり、飲み薬だったりもします。どんな薬剤を使うかは臨床試験に基づいたガイドラインに準じて決定します。がん治療では、薬物療法や手術、放射線治療を組み合わせで行います。その中の薬物療法でもいろいろな薬を組み合わせで治療を行います。患者さまの副作用の状況に応じて治療スケジュールや薬の量を調整しています。

治療効果と副作用を天秤に

どんな薬にも必ず副作用はあります。抗がん剤は治

療効果と副作用が密接に関わっています。いくら薬が効いたとしても、吐き気がどうしようもなく起き上がれないくらいつらいようならば、治療の継続をおすすめしません。治療効果と副作用を天秤にかけて判断しています。副作用は人それぞれです。例えば吐き気が強く出るのは、女の人＞男の人、若い人＞高齢の人、つわりが重い人＞つわりが軽い人、アルコールに弱い人＞アルコールに強い人、乗り物酔いをする人＞乗り物酔いをしない人といった傾向があります。

また、抗がん剤の中でも、副作用の吐き気が強い薬、真ん中の薬、弱い薬、かなり弱い薬といったいろいろなタイプのものがあります。

10年前、20年前と比べて、副作用の対策も大きく変わりました。昔は、ひどい吐き気があれば薬物治療を中止していました。しかし、今では副作用を予防する薬が開発され、特に吐き気や嘔吐に対しては多くの方が予防できるようになりました。副作用の症状や対応については、担当の医師や看護師、薬剤師に相談してみしょう。



入院は必要？

薬物療法は、入院だけではなく外来でも治療ができます。そのため、外来で治療をしながらお仕事をする



▲渥美薬剤師

薬物療法では、副作用について不安に思う方が多くいらっしゃいます。同じ性別、同じ年齢、同じ身長、同じ体重でも副作用に個人差があります。治療はやってみないと分かりません。最近は副作用の予防薬が多く出ています。患者さまと話をしてみると、ご自身が想像していたよりも治療がラクだったと感じる方が多いように感じます。まずは治療をしてみましょう。治療をしてみてつらかったらやめてもいいんです。お休みしてもいいんです。そのときは一度離れて楽しいことをしてみましょう。

患者さまから「思ったより治療がラクだったよ。」と言われると嬉しくなります。これからも患者さまが“ラク”に治療できるように、副作用のことはもちろんですが、精神面でも手助けをできたらと思っています。

方もいらっしゃいます。初めて治療をする方は、入院治療で様子を見て、大丈夫であれば外来での治療に切り替えるといった対応をすることもあります。当院には、薬物療法を外来で行うことができる、“外来化学療法室”という場所があります。ベッドとリクライニングチェアを併せて20床完備し、静かで快適な空間で治療に専念することができます。ゆったりとしたオルゴールも部屋の中で流れていますよ。

リクライニング
チェア▶



◀ベッド



どんな流れで治療をするの？

薬物療法の治療が決まったら、外来化学療法室でオリエンテーションを行います。部屋での過ごし方の流れや副作用についてお話をします。

治療当日は、事前に記入していただく問診票を基に看護師がお話を伺います。治療の時間は短い方は2時間程度、長い方は半日以上かかります。薬剤の成分の影響で眠くなったり、家ではなかなか休むことができないからと、お休みになられる方が多いです。緊張がほぐれるようにテレビも放映しています。

どんな副作用の悩みでも相談して

手がしびれてお皿を落としてしまう。食べ物がおいしく感じられない…。「命に直結するようなことではないからしょうがないよね。」と、このような副作用の症状について相談をためらう方もいらっしゃいます。今まで当たり前だったことが当たり前でなくなることは、とてもつらいことです。治療中は日頃の悩みを伝えることができる機会です。医師の診察中には話しづらいこともあるかもしれませんが、悩んでいることは、外来化学療法室でどうぞお話してください。あなたの悩みを解決できるように、医師や栄養士など多職種に働きかけをします。



▲外来化学療法室の看護師

その人らしい生活ができるように

治療をする、治療をしないは、医療者ではなく、患者さまやご家族が決めることです。患者さまがどのような生活を送りたいかを大切に治療しています。自分の今までの生活を変えたくないのならば、その希望に合った方法を提案します。その人らしい生活、その人が満足できる治療に比べられるようにサポートをしていきます。

安全で安楽な治療ができることが第一の目標ですが、心のサポートや生活のサポートにも重きを置いています。医師の前では話せないことも看護師には話せるといったことがあると思います。人と話すとすっきりします。話をするとしないとでは全然違います。心配なことや不安なことがあったら、隠さず我慢せずに、どんな些細なことでも伝えてください。ある患者さまは「ラーメンをおいしく楽しく食べたい。」と話してくれました。またある患者さまは「絵を描きたいので、しびれの副作用が出る薬は使いたくない。」と教えてくれました。思いを話すことで、心もラクになりますし、その人に合った治療につなげることもできます。

副作用のつらさがなくなるように、その人らしい生活が送れるように、多職種と連携しサポートしていきます。



▲岡田看護師

マイナンバーカードが保険証の代わりになります

どんなメリットがあるの？

①健康保険証としてずっと使えます

就職や転職、引っ越しをしても保険証の切替えを待たずにマイナンバーカードで受診できます。

②手続きなしで限度額以上の一時的な支払いが不要に

限度額適用認定証がなくても、高額療養費制度における限度額以上の支払いが免除されます。

③健康管理や医療の質が向上します

患者さまの同意をいただければ、特定健診情報と薬剤情報を医師等が閲覧できるようになります。



利用申込み方法

マイナンバーカードを保険証として利用するためには、事前申込みが必要です。

◆詳細はマイナポータルサイトをご覧ください。



第36回医療市民講座～がん講習会～のご案内 「がんと闘う 住みなれたこの場所で」

新型コロナウイルスの影響で開催延期となった2021年9月11日の医療市民講座を以下のとおり、開催いたします。
皆さまの健康と安全を第一に考え、感染防止策を講じます。

日時

2022年2月26日（土）
午前10時～正午（受付9時30分～）

場所

袋井市月見の里学遊館うさぎホール
（袋井市上山梨4-3-7）

申込み

1月17日（月）から2月25日（金）までに申込み。ホームページ専用フォーム、または問い合わせ先へ電話、FAXのいずれかにて。

問い合わせ

経営戦略室
電話：0537-21-5555（代）
FAX：0537-28-8971（代）

入場料無料

定員200名（予約制・先約順）

演題

- ①「最近増えてます！大腸がんと膵臓がん」
京兼 隆典 医師（医務局長 兼 外科診療部長）
- ②「がんと共に生きる～緩和ケア外来～」
内山 智浩 医師（副医務局長 兼 麻酔科診療部長）
- ③「がん相談支援センターのご紹介」
中川 穂波 看護師（副看護部長 兼 がん相談支援センター長）

◆詳細は当院ホームページをご覧ください。



● 医師異動のお知らせ ●

11月30日付 退職

消化器内科 名嘉原 忠博

今までありがとうございました



11月の 診療実績

1日あたりの患者数		
	入院	386人
	外来	1,164人
紹介	率	90.3%
逆紹介	率	97.1%
病床利用	率	77.1%
平均在院	日数	9.0日
手術	件数	538件
救命救急センター受診	者数	1,244人
救急搬送	件数	432件

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL 0537-21-5555



日本医療機能評価機構
認定第 JC2093 号